

# 実践のまとめ（小学校6年 社会科）

授業公開日 令和7年10月16日（木）

指導者 関川村立関川小学校

教諭 山田 大輔

## 1 研究テーマ

社会的事象の「見えない問い」を追究する児童の育成

～「見える問い」が「見えない問い」へとつながる単元構想をとおして～

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編では、小学校社会科の改訂の趣旨および要点の中に、以下のことを求める記述がある。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するよう授業改善を図ることや、小・中学校の社会科の内容を枠組みや対象に区分して整理したり、「社会的な見方・考え方」と概念等に関する知識との関係などを整理したりして、学習指導要領に示していくこと（下線部は筆者）

小学校社会科における社会的な見方・考え方については、「社会的事象の見方・考え方」とし、「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」とされている。概念等に関する知識について、北（2011）は、「知識の構造化」として、「概念的知識」「具体的知識」「用語」に整理した。知識を体系化することで知識同士の関連性に着目でき、教師が単元を構造的に捉えることにもつながると考える。上述のことから、現行の指導要領で目指す社会科の授業は、社会的事象の見方・考え方を働かせながら知識を習得し、それらの知識を比較、分類したり、総合したり、人々の生活と関連させたりすることで、より概念的な知識へと発展させていくことが重要であると考えられる。

昨年度、社会科の実践を重ねる中で単元内自由進度学習を取り入れ、児童が見方・考え方を働かせる問いを立て、単元の課題を解決するような学習を行った。しかし、児童が自ら立てる問いは、時数を重ねても「どこに…が多くあるのか」「いつ…なのか」といった、調べると分かる問い（見える問い）が多く、概念的な問い（見えない問い）に近付いていくことが少なかった。そこには、教師の単元構想の不十分さや、見えない問いにつながる手立てが有効でなかったという原因が挙げられる。そこで、今年度は昨年度の単元内自由進度学習の授業をもとに単元構想や手立てを改善し、児童の個別の「見える問い」が概念を問う「見えない問い」へとつながっていく社会科実践を行いたいと考え、研究テーマを設定した。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 「具体的知識の個人追究」と「比較、分類、総合、関連付けの全体追究」を明確にした単元構成

昨年度までの実践から、単元内自由進度学習のような学習形態を取り入れると、児童はまず、自分の知識の不十分さから、具体的知識を問う課題を設定することが多い。そこで、個が追究した具体的知識を全体共有する場面を明確に位置付け、その際に単元のねらいに迫る全体追究を行う。そのことで具体的知識が構造化され、概念的知識の追究へとつながっていくと考えている。

#### ② 「見える問い」から「見えない問い」に着目する手立ての工夫

全体追究の場面では具体的知識から抽象的知識への追究の変化が必要であると考えられる。その際に、児童が概念的知識に着目することで「見えない問い」を設定すると考える。具体的には、「価値を問う発問」や「願いや思いに着目する資料」を提示することで、概念的知識を追究することにつながるだろう。児童の個人追究から全体に提示する材の吟味を行い、個人の追究意欲を継続できるような材の提示

をする。

### ③ 「見えない問い」を解決するための、「地域の人材」の活用

見えない問いは、事実として目に見えるものではなく、社会的事象に携わる人々の願いや思いとして表出することが多い。そこで、地域の人材を教材化し、単元の材として取り入れることで、児童が追究した見えない問いを獲得するために活用する。具体的には単元の終末に実際に話を聞く場面を取り入れたり、インタビューを教材化したりすることで、児童が概念的知識を獲得できるようにしたい。

## (3) 研究テーマにかかわる評価

下記の内容について、単元実施後にアンケートを行い、手立ての有効性を検証する。

- ①学習課題を設定し、課題について調べてまとめることができましたか。(数値による評価)
- ②学級で共有する場面で、他の人の調べたことと自分の調べたことを比較したり、合わせたりして新たなことを知ることができましたか。(数値による評価)
- ③「◎どの政策が、全国を支配するのに一番効果的だったか」という問いを解決するために、地域の話が役立ちましたか。(数値による評価)
- ④単元の学習の振り返りを書きましょう。(問いの立て方、解決の仕方について)(記述による評価)

数値による評価(①～③)は、1～4の数値で回答し、3、4と回答した肯定的評価の割合で、手立ての有効性を検証する。記述による評価(④)は、問いの立て方や解決の仕方の記述から単元全体の学びを分析し、単元構成が研究テーマに迫るものになっていたかを検証する。

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

幕府の政治と人々の暮らし (教育出版 小学社会 6年)

### (2) 単元の目標

- ・武士による政治が安定したことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、参勤交代や身分制度、鎖国などの幕府の政策について理解している。</li> <li>調べたことを年表や図表にまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について考え、表現している。</li> <li>参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸幕府の政治について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li> </ul>

### (4) 単元と児童（男子 19 名、女子 15 名 合計 34 名）

社会科の学習において、高い関心や意欲をもち、学習に向かう児童が多い。歴史単元が始まり、事実を調べ、写真や言葉を用いて調べたことを表現する経験が多く、ノートやタブレット端末を使用しながらまとめる技能が身に付いている。また、情報を整理する中で思考ツールを使用することも多く、状況に応じてどの思考ツールを使用するかを選択、判断することのできる児童もいる。そういった児童の姿を価値付け、自己選択、自己決定することの大切さを学級経営の中核に据えている。

一方、歴史単元となり、歴史の事実を調べ、表現することは多いが、その事実から自分なりの価値を見だし、「どの政策が有効だったのか」といった概念的な判断を迫る機会が少なくなってしまう。

本単元では、江戸幕府の行った政策が安定した政治の体制につながったことを概念的な理解として、児童が事実をもとに単元終末で自分の考えを判断、表現する姿を期待している。

### (5) 単元の構想

本単元では、一斉学習と個別の問いを解決する学習を往還しながら学びを進める。単元最初の時間では、江戸幕府の支配が全国の大名や庶民に行き届いていることを資料から読み取り、全国時代とは異なって幕府の支配が戦を減らし、安定した時代になったことを確認する。そして、「江戸幕府は、どのようにして全国を支配していったのか」という単元を貫く学習課題を設定する。資料の中からも児童は想起できると考えるが、「全国の支配」の要素の中には、「大名」「庶民」また「外国との関わり」といった視点が挙げられる。その視点を主語にした個別の問いを立てることを促し、次時の学びへとつなげていく。

二次では、一次で立てた個別の問いを解決する時間とする。教科書や資料集などを活用し、用語（教科書ではキーワードと記載）を確実に読み取り、歴史的な事象への知識を蓄えていく。二次での知識が、本時での社会的な事象の価値判断にも必要になるため、場合によっては授業導入時に用語の確認を行うなどして定着を図る。児童は、ロイロノートかノートを選択し、自分の調べたことをまとめていく。その際に、言葉だけではなく、写真や図を用いるようにも促す。

一次、二次を経て、本時では江戸幕府の政策についての価値判断を行う。どの政策にもそれぞれの効果があったと考えられるが、その中で多角的な見方を行っている児童を取り上げて価値づけたり、児童同士の交流の中で考えを比較し、自分の考えを再検討する姿を促したりすることで、より深く事象を理解し、社会的な事象の概念に向かうようにしたい。

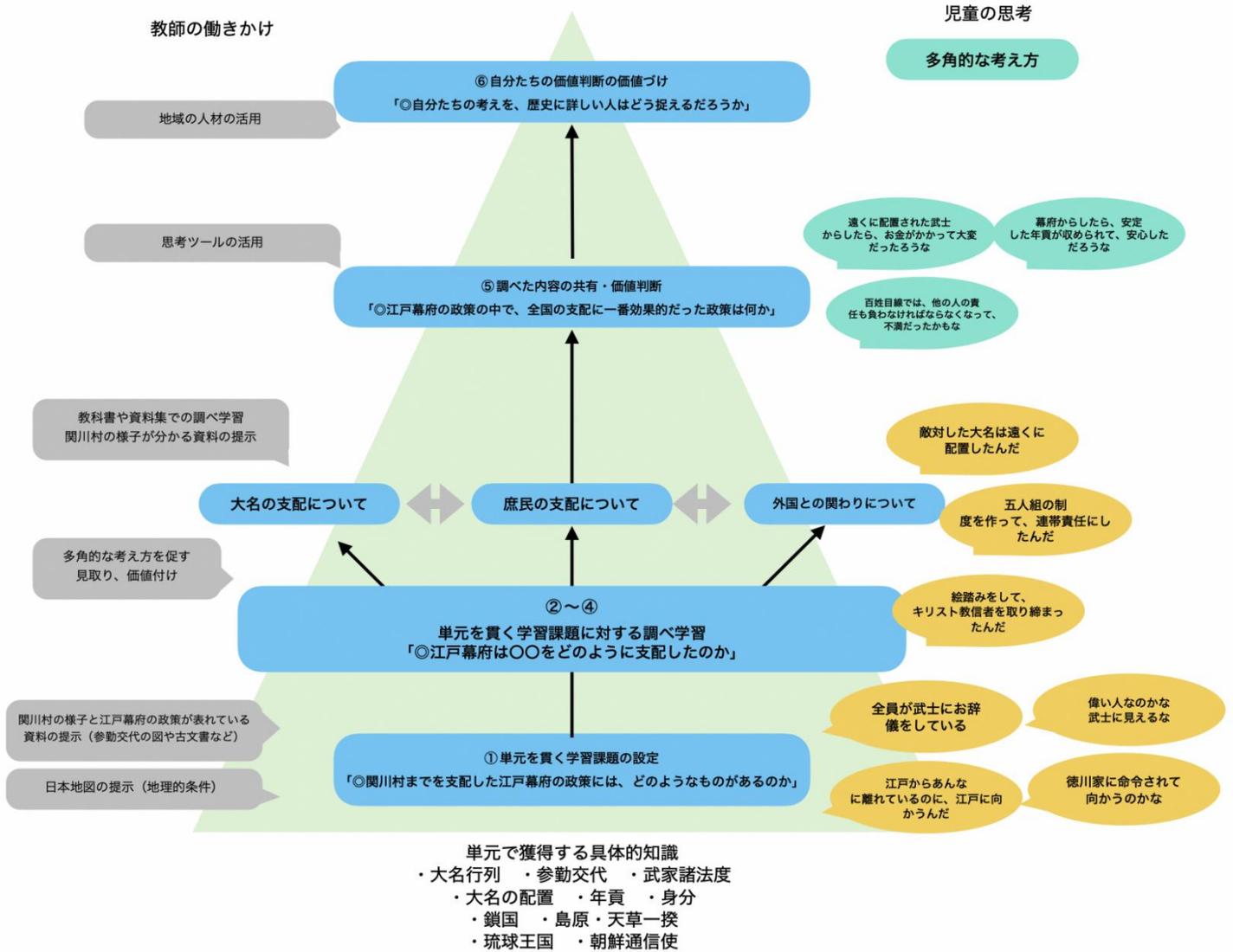
単元名：幕府の政治と人々の暮らし

単元の目標

- ・武士による政治が安定したことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ・江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

単元で獲得したい中核的概念

江戸幕府の武士に対する政策、庶民に対する政策、外国との関わりに関する政策などにより、関川村を含む全国を支配し、武士を中心とする身分制度が確立し、江戸幕府の政治が安定したこと



4 本時の展開 (5/6 時間目)

(1) 本時のねらい

江戸幕府の政策について、調べた内容を共有・整理することで、どの政策が全国を支配するために効果的だったかを考え、自分なりの価値判断を行い、表現する。

(2) 展開の構想

本時では、前時までには児童が追究した具体的知識を共有する場面から行う。前時までには、「武士の支配」「百姓の支配」「商人の支配」といった視点で江戸幕府の政策について調べている。それぞれの政策について共有した後に、政策の多さやその効果を確認する。その後、児童がそれぞれの政策の効果や価値、有効

性について認識している中で、全国を支配する中でどの政策が一番有効だったかを問う。この発問は、「一番」を決めることが目的ではなく、あえて一番を問うことで児童がそれぞれの政策の有効性を比較し、児童自身が政策の価値付けができることを促すことを目的としている。

この発問から、児童はそれぞれの立場（武士、百姓、承認）で政策の内容を再考するだろう。その政策の有効性をダイヤモンドランキングに示し、児童同士で再考した内容や、有効性について判断した理由を交流させる。その中で「武士からすると…」「百姓としては…」といった、特定の立場に立って思考したこと（多角的な思考）を取り上げ、全体に共有する。そのことで立場によって政策の有効性が変わること気付かせたい。

振り返る場面では、児童同士の交流の中で生まれた考えの変容や、多角的な視点から政策の価値を再考できるように、振り返りの視点を示す。

### (3) 本時の展開

時間 (分)	学習活動	教師の働きかけ (○) 予想される児童の反応、思考 (●)	□評価 ○支援 ◇留意点
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習内容の確認</li> <li>・ 課題の設定</li> </ul>	<p>○前回までの調べた内容を、他の友達と共有しましょう。</p> <p>●江戸幕府は、参勤交代を行なって、各地の大名を江戸に呼び寄せた。そのことで、大名はお金がなくなって、幕府に刃向かうことができなくなった。</p> <p>●武家諸法度というきまりを作って、大名に守らせた。江戸城の修理もさせた。</p> <p>●庶民の身分制度をはっきりさせた。</p> <p>●年貢を納めるときに、五人組という制度を作り、連帯責任を負わせた。</p> <p>●鎖国を行い、外国との交流を制限した。</p> <p>●キリスト教の信者を取り締まり、逆らえないようにした。</p> <p>●多くの政策を、江戸幕府は行ったんだ。</p> <p>○多くの政策の中で、全国を支配するために効果的だった政策はどの政策だと考えますか。</p> <p>●参勤交代かな。それで大名が言うことを聞かざる得なくなった。</p> <p>●絵踏みで、キリスト教を信仰する人を抑えたことかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎江戸幕府の政策の中で、全国を支配するために一番効果的だった政策は何か？</p> </div>	<p>○児童がロイロノートかノートに前時までの学習を進めているので、その内容を共有する声かけを行う。</p> <p>◇児童の様子を見取り、思考ツールを使用したり多角的に社会的事象を捉えたりする姿を価値付ける。</p> <p>□調べた内容について、正しく相手に伝えることができる。</p> <p>◇児童同士で共有した後、「誰に対して」「どのような政策をしたか」を簡潔に板書する。</p> <p>◇政策の多さと、それぞれに効果があったことを価値付ける。</p> <p>□授業者の発問に対して、自分の考えをもち、学習課題に対する自分の考えをもとうとしている。</p>

25	<p>・ 価値判断</p>	<p>○ダイヤモンドランキングを使って、自分の考えを整理しましょう。</p> <p>●参勤交代で、大名の使うお金がなくなった。幕府に対して戦をすることができなくなったから、効果的だと思う。</p> <p>●年貢を納めさせることで、幕府の人たちは困ることなく暮らしていけるから、有効だと思う。</p> <p>●各地に親戚のような大名を配置することで、遠くの地域も支配できたと思うから、大名の配置は効果的だった。</p> <p><u>全体に広げる価値がある発言の例</u></p> <p>●武士目線で考えると、キリスト教の取り締まりによって各地での反乱も少なくなったと思うし戦いに行く必要がなくなったから、キリスト教の取り締まりは有効だったと思う。</p> <p>●庶民からしたら、幕府が大名を参勤交代させることで刃向かうことも減り、戦いに巻き込まれることも減ったと思う。庶民からしたらよかったのではないかな。</p>	<p>◇ロイロノートに、思考ツールを配付する。</p> <p>◇児童同士の交流を促し、多様な考えにふれさせる。また、交流の中で考えが変わってもよいことを伝える。</p> <p>○ダイヤモンドランキングへの表し方を示す。</p> <p>□ダイヤモンドランキングに、学習課題に対する自分の考えを表現することができる。</p> <p>□どの政策が有効であったかを、理由をもって判断し、江戸幕府の行った政策に対する価値判断をしている。</p> <p>◇児童の交流の様子を見取り、全体に広げる価値がある考え（多角的な視点から捉えている考え）があれば、交流を止めて発言を促す。</p>
5	<p>・ 振り返り</p>	<p>○今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>●今日は、江戸幕府の政策で何が一番支配に効果的だったかを考えました。僕は、参勤交代が効果的だと思っていたが、〇〇さんの意見を聞いて、絵踏みや鎖国などの政策が反乱を抑えることにもつながったのではないかと考え直しました。</p>	<p>◇振り返りの視点を示す。</p> <p>◇多角的な視点から振り返ることのできている児童を価値付ける。</p> <p>□交流の中で再考した内容や振り返りの視点を意識して、自分の考えを表現することができる。</p>

#### (4) 評価

A：江戸幕府の政策で、どの政策が全国を支配するために効果的であったかを判断し、他の政策との比較をしたり、特定の立場に立ち考察したりしながら表現している。

B：江戸幕府の政策で、どの政策が全国を支配するために効果的であったかを判断し、理由も含めて表現している。

### 5 成果と課題

#### (1) 成果

① 単元を貫く学習課題に対する、個人での学習課題の設定ができた。

単元第1時では、江戸幕府と関川村の位置関係を確認したのち、江戸幕府から関川村に発出された御触書の資料を提示した。児童は、御触書の内容を読み取り、「江戸幕府が遠い関川村までも支配していたこと」に気付いた。その気付きを生かし、単元の学習課題を「江戸幕府から遠い関川村までを支配した江戸幕府は、どのような政策をしたのか」と設定した。

その後、「支配されるのは誰か」と問うと「武士」「百姓」「商人」という発言があった。商人という発

言は、前单元「全国統一を目指す人々」の中で、楽市楽座によって商人が優遇されたことを児童が想起したためだと考える。その後、この三つの立場から単元の学習課題を追究していくことを確認した。

次時からは、自分で立場を選択し、学習課題を設定し追究を行った。「江戸幕府はどのようにして（武士）を支配したのか」という学習課題を設定した児童を取り上げることで、学習課題の設定を他の児童も行うことができた。

また、学習課題に対する追究場面では、これまでの学習でも取り入れていた追究の過程を意識して、児童は学習課題を解決していた。追究の過程とは、「キーワードの抜き出し（カード）」→「整理（思考ツール）」→「まとめ（学習課題に対する文章での表現）」である。主にロイロノートを活用する児童が多かったが、学びに向かう方法も尊重し、ノートで学習を行うこともよいこととした。（図1）

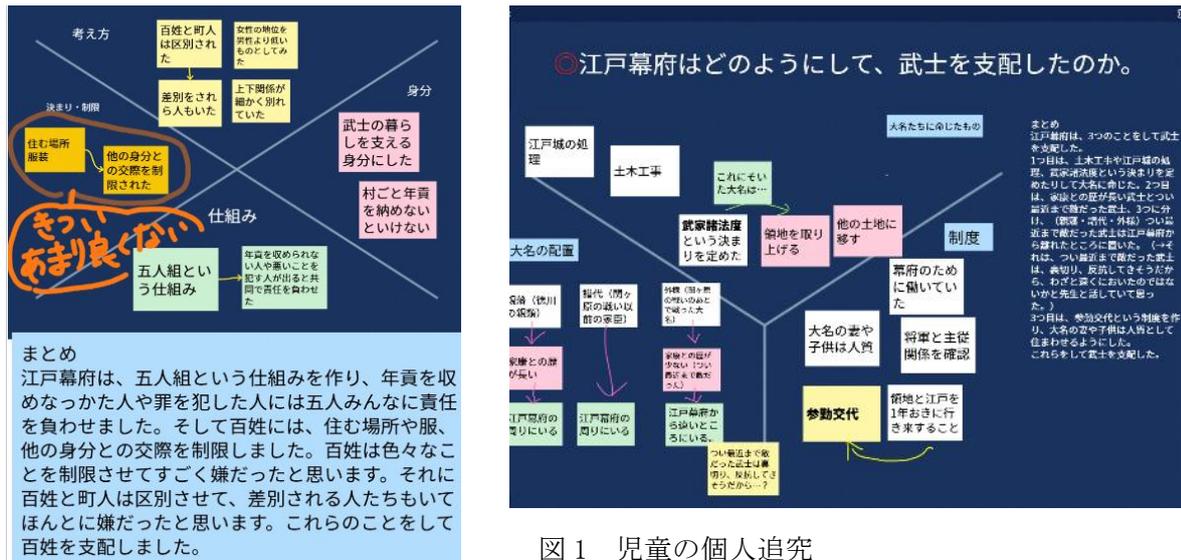


図1 児童の個人追究

单元末アンケート①「学習課題を設定し、課題について調べ、まとめることができた」と肯定的に捉えた児童は96.6%となり（図2）、ほとんどの児童が单元を貫く学習課題に対して学習課題を設定し、個人での追究を行うことができた。本单元だけでなく、他の单元や教科でも单元を貫く学習課題を意識した授業を行うことで、児童は学習課題を設定する経験をしている。継続的な取組が、本单元にも表れたと考えられる。今後も单元全体を構想した授業を継続したい。

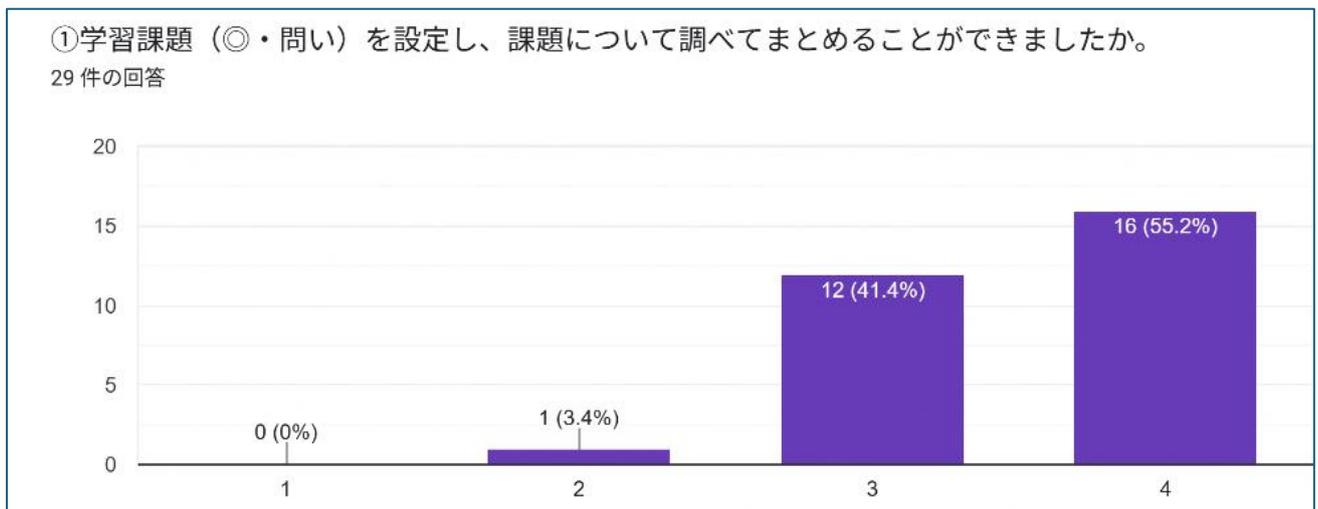


図2 アンケート①の結果

② 本時交流場面での、児童同士での比較や関連付けが、多角的な考えを生み出した。

本時では、学習課題「◎どの政策が全国を支配するのに一番効果的だったか」について、自分の考え

をダイヤモンドランキングに表現した。その後、児童同士での対話を促した。児童は、対話の中で武士や百姓の立場にたつて政策の有効性を交流していた。単元終末の振り返りでは、児童は下記のように記述している。

この単元の学習では、特に、いろいろな立場から考えることが多く、いつもなら、いろいろな身になって考えることが難しく、考えることができなかったけど、今回はいろいろな立場になって、考えることができました。例えば、五人組の「共同で責任を追わせるようにした」では、『幕府からしたら、安心できるけど、百姓からしたら不満しかない。』と、考えました。更に、私だけでは考えられなかった目線を先生や友達と考えを共有して、今までできなかった、いろいろな立場から考えることができました。 (下線は筆者)

下線部のように、児童は立場を明確にしながらか江戸幕府の政策の有効性を考えることができた。また、交流場面で児童同士の対話を促し、授業者が対話の様子を見取りながらか適切な介入を行ったり、全体に広げたりすることで、児童が多角的な視点から社会的現象の価値付けを行うことができた。

また、本時の中で、児童の発言をつなぐ働きかけとして、下記のようなやり取りがあった。

T 一番上は何になった？ 武家諸法度だね。なぜ武家諸法度なの？  
C1 武家諸法度はルールだから、従わないと脅されるかもしれない。  
T 脅されるのは誰？  
C1 武士。  
T 武士ね。その強い武士が幕府のきまりを守らないといけないからってことね。  
C2 俺は鎖国。  
T なぜ鎖国なの？  
C2 貿易があったじゃないですか。鎖国で銃とかが流通していなかったから、なんていうか、外国との広がりがなかったから。  
T 君は五人組なんだよね。なぜ？  
C3 農民とか昔の職業で言うと、人数が多そうな感じじゃないですか。  
C4 農民は人数多いよ。84 ページのグラフで…

教師が児童の学びの中に介入し、それぞれ交流している児童をつなぐ役割をすることで、考えの広がりや深まりが生まれた。この際教師は、児童の発言に対して問い返すことで理解を深めたり、周囲の児童がどの立場からダイヤモンドランキングの作成を行っているかを見取り、異なる意見の児童を交流させたりした。そのことで、児童が対話の中で多角的な視点から考察できるようにした。C3の児童は、本時の振り返りで図3のように記述した。

C3の児童は、百姓の割合が多いことを根拠にしながらか五人組が有効だと考えていた。しかし、本時の中で異なる立場の児童と対話をするることにより、様々な政策の効果についても再考することにつながった。

単元末アンケート②「学級で共有する場面で、他の人が調べたことと自分の調べたことを比較したり、合わせたりして新たなことを知ることができたか。」(図4)の項目では、86.2%の児童が肯定的評価をした。本時の対話場面において、児童の対話の中に教師が積極的に介入し、児童同士をつなぐ発問を行うことで、新たな考えに気付いたり、自分の考えを再考したりすることができたと考える。

**振り返り**  
今日は、どの政策が支配につながるかを調べました。自分は五人組や、年貢の取り立てが一番効果的だったと思います。百姓は職業の中で一番多く、ここに年貢の取り立てをかければ、自分たちが米に困らなくなりかつ、農民が一致団結するととても怖いから、支配できるととても幕府として効果的だからです。まひろさんの話を聞いて参勤交代もいいと思いました。

図3 本時の児童の振り返り

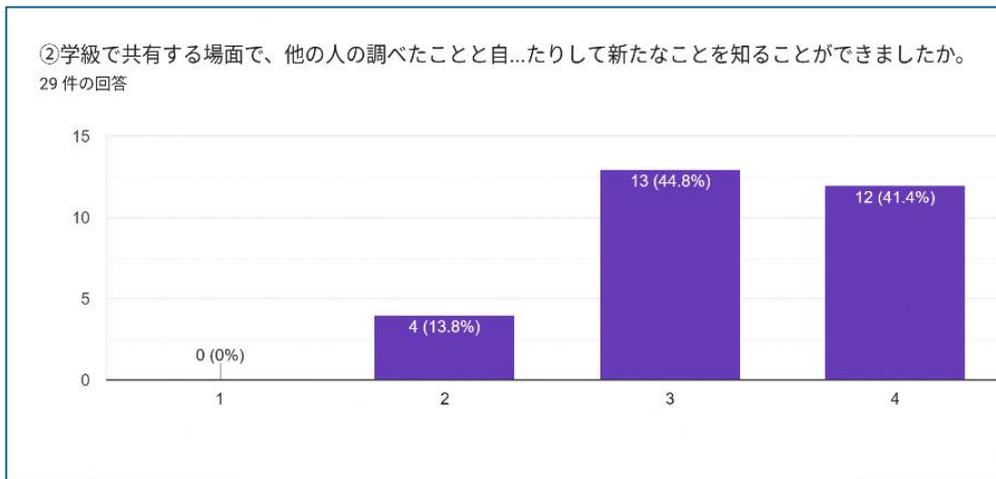


図4 アンケート②の結果

③ 単元終末の地域の人材の活用が、「見えない問い」の解決に有効であった。

本時を終え、児童は「どの政策が全国を支配するのに一番効果的だったか」という見えない問いに対して自分の考えをもつことができた。公民的な分野であれば、実際に行政にかかわる人に話を聞くなどし、見えない問いに対する価値付けを行うことができるのだが、歴史分野では過去の社会的事象に対する価値判断を行っているため、実際の声で価値付けを行うことができない。そこで、本単元では関川村在住の渡辺伸栄様に児童の考えを伝え、価値付けをしていただいた。

単元末アンケート④「単元の振り返り」の中で、地域の人材の活用にふれた児童は、次のように記述している。

私は、幕府が決めたきまりについて、武士・百姓・商人の立場になって考えてみました。そうすると、「なんでこんなきまりを作ったんだろう」や「関係ないのにひどいな」などたくさん考えたことや、疑問がありました。でも、渡辺伸栄さんの話を読むと、「そういうことだったんだ」や「関川村にもそんな事があったんだ」など新しく知ったこともありました。

幕府は、何かの制限をして一つのことに集中してほしいという願いがあったことを、この単元と渡辺伸栄さんのお話でよくわかりました。…渡辺伸栄さんのいっている通り百姓は、米作りに集中できないくて困っているのがわかりました。 (下線は筆者)

この振り返りからも分かるように、児童は単元の中で考えたことや疑問が残っていたが、渡辺様の価値付けから新たな概念的な知識を得たり、当時の人々の願いや思いに触れたりすることができた。歴史分野であっても、地域の人材を効果的に活用することで、児童の見えない問いの解決に有効であったといえる。単元末のアンケート③の結果でも、地域の人材の話が役に立たと答えた児童は、93.1%の児童が肯定的な評価をした。(図5)

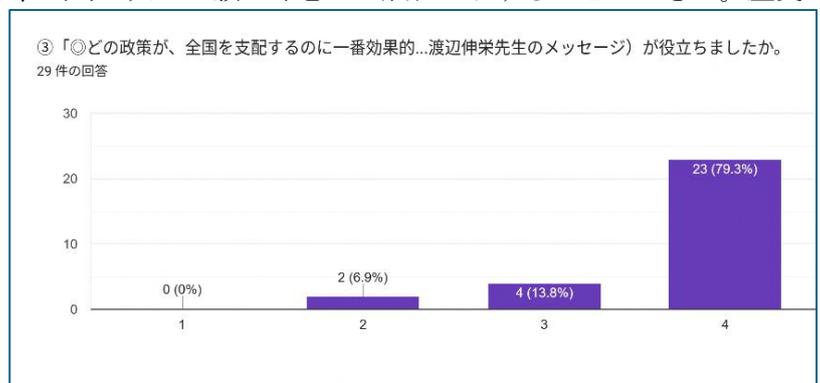


図5 アンケート③の結果

(2) 課題

① 立場を明確にした対話をする必要があった。

本時の学習課題は、「どの政策が全国を支配するのに一番効果的だったか」であるが、武士の立場や百姓の立場を指定せずに自由に対話をさせた。児童が対話する中で立場を意識したり、立場を明確にして話をしている児童を全体共有の場で取り上げたりすることで、いずれかの立場に立ち、多角的な視点で考察

する考え方を身に付けさせたいと考えていたが、立場を決めさせなかったことで、話し合いの土台がそろわなかった。どこまで児童に方向付けをするかも含め、今後の対話場면을構想する際に意識したい。

② 有効かどうかの基準を明確にする必要があった。

今回の学習では、有効かどうかの判断は自分の中にあり、客観的な根拠はなかった。例えば、武家諸法度を制定することと江戸時代の戦の少なさを関連付けながら語る児童がいたとしたら、その姿は武家諸法度という政策の有効性を客観的な数値で証明しようとする姿である。自分の考えの根拠となる資料を手元に準備し、自分の言葉で語る際には、その資料を示しながら語るような姿があると、より話し合いが深まったのではないかと考えられる。その際には、資料はタブレット端末上ではなく、紙面として持っていた方がよいだろう。今回はロイロノートと教科書や資料集を使って学習を進めたが、学習を行う上でのデジタルとアナログの往還を意識し、単元構想を行っていききたい。

## 6 参考文献

- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編、2018 年
- ・北俊夫『社会科学力をつくる“知識の構造図”－“何が本質か”が見えてくる教材研究のヒント』明治図書出版、2011 年
- ・澤井陽介、中田正弘、加藤寿朗、宗實直樹『これからの社会科教育はどうあるべきか』東洋館出版社、2023 年
- ・宗實直樹『社会科 「個別最適な学び」授業デザイン』明治図書、2023 年